OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	邦訳版Moral Expansiveness Scale(MES)の作成
Author(s)	高松, 礼奈; 高井, 次郎
Citation	対人社会心理学研究. 2017, 17, p. 93-102
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67200
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

邦訳版 Moral Expansiveness Scale(MES)の作成

高松　礼奈（名古屋大学教育発達科学研究科）
高井　次郎（名古屋大学教育発達科学研究科）

本研究の目的は、道徳的な気遣いの適用される範囲と深度を測定する Moral Expansiveness Scale(MES)の邦訳版を作成することであった。MES では、10 カテゴリから構成される、実在する 30 の生物、非生物(動植物、環境)について、４層から構成される道徳の輪のどこに属するか回答を求める。邦訳版作成にあたり、日本人に馴染みのないものは、日本社会に対応するものに置換された(例: Soldier→自衛官)。オンライン調査(n = 246)の結果、MES 翻訳版は、関連概念の尺度との間に低～中程度の有意な相関が見られ、向社会的な行動意図を独自に予測することも示された。MES は、生物・非生物の道徳的な輪の相対的位置や、道徳的な気遣いの個人差を知ることができ、道徳研究を含め幅広い研究テーマへの寄与が見込まれる。

キーワード：道徳性の拡張性、邦訳版作成、信頼性と妥当性の検討、道徳の輪、道徳判断

問題

誰もが、難民に対する街頭のヘイトスピーチには強い怒りを表すのに、メッセージが「難民を助けよう」と向社会的になった途端、通行人は立ち止まらなくなる(Carty, 2015)。オーストラリアの路上実験で見られたこの無関心な傍観は、個人的な犠牲を払って物理的かつ心理的距離の遠い難民を助けようと試みる人がごく僅かであることを物語っている。だが、非情な傍観者と結論づけるのは早急である。なぜなら、状況によっては、彼・彼女らも困っている他者に関心を示すからである。私たちには、自己と他者の境界線が消失するメカニズムが脳内に組み込まれているが(Iacoboni, 2011)、共感を抱きやすい他者とそうでない他者が存在する(Cikara, Bruneau, & Saxe, 2011; Decety & Cowell, 2014)。つまり、共感を抱く他者と抱かない他者の間には、見えない線引きがあり、道徳的な気遣いの対象の基準となる。

この見えない線引きは、道徳の輪内と輪外で説明できる。Singer (2011)の提唱した道徳の輪によると、私たちは、自分を取り巻くコミュニティの一員として道徳的な気遣いの対象となる他者を道徳の輪内に包括する。だが、道徳的な価値に守られたこのコミュニティは排他的で、輪外の者は擁護される対象から除外され、時には人道的な扱いを受ける価値がないと判断される(Opotow, 1990)。

道徳の拡張性(Moral Expansiveness)

道徳の拡張性(moral expansiveness) とは、自発的に、実在する人や動植物(entity; 以下、ものと称す)を道徳の輪に包括する範囲と程度を示す(Crimston, Bain, Hornsey, & Bastian, 2016)。道徳の輪には、道徳的な気遣いや扱いを受ける権利を持っているとされるものが含まれる。輪はいくつかの層になっており、中心部から離れると、道徳的な気遣いをする個人的な義務感は弱くなる(Crimston et al., 2016; Singer, 2011)。道徳の拡張性とは、個々人が自らの道徳的な価値観を適用する範囲や、各ものに対して抱く道徳的な気遣いを持って接するべき義務感の強さである。道徳の拡張性の高い人は、家族や友人に限らずに共通点の少ないものに対しても、道徳的な気遣いと配慮を示すよう道徳の輪に包括する。

また、あるターゲットに対して感じる道徳的な気遣いをする義務感には、個人差の見られることが予想される。例えば、菜食主義であることに道徳的価値を見出す菜食主義者は、道徳の輪内に比較的高い知能を有する動物(例: 牛、鶏)を含めていると考えられる(Rozin, Markwith, & Stoess, 1997)。また、非生物である人形や自然に心を知覚し、まるで生きているかのように扱う人もおり、彼・彼女らにとっては、非生物も道徳の輪の内側に位置付けられ、道徳的な扱いを受ける対象となる(Epley, Waytz, & Cacioppo, 2007)。

以上より、道徳の拡張性とは、道徳の輪の範囲の広さ(breadth)と深さ(depth)の指標であり、道徳判断に影響を及ぼすことが予想される。道徳の拡張性とは、抽象的な道徳判断に止まらず、自己犠牲を伴う状況においても、そのものの幸福を自発的に保障しようとする責任感を伴う(Crimston et al., 2016)。

既存尺度の問題点

道徳の拡張性を測定する既存の尺度は、各ものに対し、道徳的の輪に包括するものに丸をつけるか、道徳的な気遣いの輪から排除するものにバツをつける二項選択法である(Bastian, Costello, Loughnan, & Hodson, 2012; Laham, 2009)。この方法には、いくつ

か問題がある。まず、道徳の拡張性の幅と程度を捉えることができない。既存尺度は、道徳的な気遣いの適用される範囲と範囲外の二極で捉えている。しかし、他者や人以外の対象に対し、道徳的に扱う配慮や個人的責任感は、ある・なしの二極ではなく、段階的に捉える必要性を Crimston et al.(2016)は強調している。道徳的な気遣いが、あらゆる実在するもの(生物・非生物)にどの程度、且つ、どの範囲で適用されるかを測定する尺度は存在しなかった(Crimston et al., 2016)。従来の尺度では、道徳の輪の内側から輪外をいくつかの層に分けておらず、人間性や道徳的な気遣いの適用される範囲が連続的に変化する点を考慮していない。一連の先行研究は、道徳的な気遣いは有り無しの二極よりも、連続性を支持している。例えば、道徳的な気遣いを受ける資格が全く欠如している、完全なる人間性の否定である非人間化(dehumanization; Harris & Fiske, 2006; Haslam, 2006)から、高次な認知能力を要する二次的感情の欠如によって特徴づけられる下等人間化(infra-humanization; Leyens, Demoulin, Vaes, Gaunt, & Paladino, 2007)まで、他者の扱いに道徳的な価値を見出す程度は連続的に変化する(Opotow, 1990)。

関連する限界点として、既存尺度は、実在するものの種類が限定されていると Crimston et al.(2016)は指摘している。個人を取り巻く世界には、様々な属性を持つ人、人以外の生物、非生物が存在する。だが、既存尺度は、特定のカテゴリにものが集中しており、実在する人や人以外のものを広範囲に包括していない。例えば、動物という上位カテゴリから抽出したものを重点的に扱っており(例: Laham, 2009)、人以外の他カテゴリ(例: 植物、環境)は検討されていない。

さらに、既存尺度の教示では、教示のフレーミングに道徳の拡張性が依存する。「道徳の輪に包括するか(例: なぜ、A を道徳の輪に含めるか)」訊いた場合は、「道徳の輪から除外するか(例 : なぜ、A を道徳の輪から除外するか)」訊いた場合よりも、道徳の拡張性が小さくなることが分かっている(Laham, 2009)。また、道徳の輪の概念を説明することなく、道徳の輪に包括するか、除外するか回答を求めると、回答者の間で概念が統一されていないことが懸念される。

Moral Expansiveness Scale(MES)

MES(Crimston et al., 2016)は、10 個のカテゴリから実在するもの(生物・非生物)を 3 つずつ提示し、道徳の輪のどこに各ものが位置付けられるか 4 件法で回答を求める。道徳の拡張性とは、道徳の輪の範囲と深さの指標であり、MES は道徳的な気遣いが適用される範囲、及び、各ターゲットに対しどの程度適用されるか深度を測定する。

冒頭の教示では、道徳の拡張性を層ごとに紹介する(実際の教示は、Figure 1 と Appendix2 を参照)。MES では、自己を中心とした道徳の輪が 4 層に分けられている(Figure 1)。

Figure 1 道徳の輪

自己も含まれる中心の「輪の内側」には、自己犠牲を払って擁護しようとする存在 (以下、ものと称す)が含まれている。Singer(2011)によると、私たちの輪の中心部には、自分と身近な人々である家族がまず含まれており、発達に伴い、友人、同僚やその他実在するものが含められることで拡大していく。Opotow(2011)が提唱しているように、道徳コミュニティに包括することは、個人的な犠牲を払う意思があって成立する。さらに、その対象となるものを擁護することは、当事者にとって個人的に意義ある行為であり、コストが報酬と比較して大きい場合も、他者の幸福を保障するために自己犠牲的な利他行動が見られる(Pinker, 2011; Singer, 2011)。

次に、輪の中心部から数えて 2 番目の層は、中心の輪の「外の輪内」である。ここに属するものは、中程度の道徳的な気遣いを受ける評判を持っているとされる。しかし、輪の内側に属するものと比較すると、ここに属するものの苦しみを低減するために個人的な犠牲を払おうとする動機は顕著に低減する。続いて、3 番目の層は配慮の「境界」に当たり、ここに属するものは、最低限の道徳的な気遣いを受けるに値する。また、個人的な犠牲を払ってまで、ここに属するものの

幸福を実現させようとする義務感はなくなる。

最後に、道徳の輪の中に入っていない「範囲外」があり、ここに属するものは、道徳的に排除されていると解釈される。私たちは、「いかなる場合においても他者を傷つけてはいけない」という道徳的価値を境界線外のものには適用しようとしない。すなわち、道徳的な気遣いを「範囲外」に属するものに示すこと自体が全く無意味な行為である。ここでは、Opotow(1990)の道徳的排除や非人間化(Harris & Fiske, 2006; Haslam, 2006)が見られる。

MES は 10 カテゴリのものから構成されている(Appendix1)。カテゴリには、6 つの集団に属する人(「家族/友人」、「内集団」、「外集団」、「敬意を示される人」、「スティグマを貼られた人」、「悪者」)、知能レベルにもとづく 2 つの動物カテゴリ(「高・低い知能を持つ動物」)、「植物」と「環境」がある。MES では、カテゴリごとに 3 つ標本が提示され、計 30 のものについて、道徳の輪の位置付けを求める。本研究は、MES 邦訳版を作成し、原版の作成プロセスを参考にして信頼性と妥当性を検討することを目的とする。

方法

調査参加者

インターネット調査会社にリクルートとデータ回収を委託し、20 歳以上の登録モニターを対象に質問紙調査を行った[2)]。配信されたアンケートに回答をしたのは、277 名であった(男性 140 名, 女性 106 名, M = 49.24, SD = 11.98)。

尺度の翻訳

原著者から MES 邦訳版の作成許可を得てから、バックトランスレーション法を用いて翻訳した。まず、第一著者が英語から日本語に翻訳し、表現の明瞭さや読み易さを協力者 2 名に添削してもらった。次に、英語圏に留学経験のある院生が日本語から英語に翻訳した。それから、原版著者にバックトランスレーション後の内容を確認してもらった。

MES では、10 カテゴリから構成される 30 の人、動物、環境について、道徳の輪のどこに位置付けられるか回答を求める。このリスト(entity list)の中には、日本人にとって関連性のないものが含まれている(例: US Army, Ayers Rock, rose bush)。該当するものについては、第二著者や大学院生と協議を重ね、日本社会に対応するものを決定した。このリストについても、上記と同じ手法で翻訳し、原版著者に確認を取った。表現に問題のあったものに関しては修正し、原版著者に再確認を取った上で最終版を決定した。

質問紙の構成

道徳的な気遣いの拡張性(MES)邦訳版 原版と同じく、調査の参加に同意した者には、最初に道徳的な気遣いの輪について説明文を読んでもらった(実際の教示は Appendix2 を参照)。参加者が概念を理解したか確認するため、確認項目にチェックマークを入れてから、回答を始められるようにオンライン画面を設定した。次に、10 カテゴリから構成される実在する人、動植物、環境に対し、それぞれ道徳の輪のどこに位置付けられるか、「道徳の輪の範囲外(0)」、「道徳的な気遣いの境界(1)」、「道徳的な気遣いの外の輪内(2)」、「道徳的な気遣いの輪の内側(3)」の 4 件法で回答を求めた(30 項目)。

道徳基盤 MES の基準関連妥当性を検討するため、道徳基盤尺度(Moral Foundation Questionnaire)を使用した(MFQ30; Graham, Nosek, Haidt, Iyer, Koleva, & Ditto, 2011)。この尺度の邦訳版と実施要領は開発者によりウェブサイト(MoralFoundations.org, 2013)で一般公開され、入手可能であった。

MFQ は第一部と第二部に分かれている。第一部では、ある人の行為に関する道徳的な善悪を判断する場合に、5 つの道徳基盤がどの程度判断材料として考え方に影響するか「まったく関係がない(1)」～「極めて関係がある(5)」の 5 件法で回答を求めた(10 項目)。第二部では、各基盤に関する記述を読み、どの程度同意するか「まったく同意しない(1)」～「非常に同意する(5)」の 5 件法で回答を求めた(10 項目)。

共感的配慮・視点取得 MES の基準関連妥当性を見るために、日本語版多次元共感測定尺度(桜井, 1988)の下位尺度、共感的配慮と視点取得を使用した。この下位尺度は各 7 項目で構成され、「まったくそう思わない(1)」～「とてもそう思う(5)」の 5 件法で回答を求めた。

自然に対する関心・保護 MES の基準関連妥当性を見るために、自然に対する感情反応尺度(芝田, 2016)の下位尺度、関心・保護を使用した。Crimston et al.(2016)では、Connectedness to Nature Scale (CNS; Mayer & Franz, 2004)が使用されている。しかし、該当尺度の邦訳版は存在しない。そのため, Mayer & Franz(2004)の提唱する構成概念をもとに作成された、自然に対する感情反応尺度の下位尺度(関心・保護)を本研究では用いた。Perrin & Banassi(2009)によると、Mayer & Franz(2004)の CNS は、自然に対する情緒的ないし心理的結びつきより、認知的な一体感を測定している。理由の 1 つとして、項目に頻出する「感じる」(feel)は、回答者に認知レベルの信念を想起させるからである。本研究では、Perrin & Banassi(2009)の指摘を考慮し、より情動的表現(例:「破壊された自

然を見ると悲しくなる」)を含む自然に対する感情反応尺度(芝田, 2016)の下位尺度、関心・保護を使用した。この下位尺度は 4 項目で構成され、「まったく当てはまらない(0)」～「非常に当てはまる(6)」の 7 件法で回答を求めた。

募金意図 MES の予測妥当性を検証するために、Crimston et al.(2016)は、人(例：家族/友人、敬意を示される人、悪者)に対しては臓器提供の意思を、動物や自然に対しては募金行動の意思を尋ねている。しかし、臓器提供の意思は、予測的妥当性を検討する指標として、日本人には適切でない可能性がある。日本臓器移植ネットワーク(2016)の世論調査によると、どの年齢層を見ても、「脳死後でも心臓が停止した死後でも提供しても良い」もしくは「心臓が停止した死後のみ提供しても良い」に対して肯定的な回答をした者は 8～9 割を上回っている。一方、臓器提供の意思表示となると、「自分の意思がわからない」もしくは「臓器提供意思表示に対して抵抗がある」と回答した者が、どの年齢層でも 6 割～8 割を超えている。つまり、臓器提供をしても良いと考えている人は比較的多いものの、大半はその意思を表すことを躊躇するのである。そのため、アンケートで臓器提供に意思について回答を求めても、回答者の実際の考えが反映されない恐れがある。本研究では、以上の世論調査を参考にし、人カテゴリに分類されるものに対しても、募金意思を向社会的な行動意図の指標にした。

本研究では、実在する募金活動を 6 個提示し(例: 東日本大震災復興支援財団、犬と猫のためのライフサポート、環境修復保全機構)、「あなたは最近、莫大な財産を相続したと想像してみて下さい。下記に挙げられた募金活動のために、あなたが自分の財産から募金する可能性はどの程度ありますか」と、各団体のためにどの程度、募金をする可能性があるか「可能性は極めて低い(1)」～「可能性は非常に高い(7)」で回答を求めた。援助対象が人である団体への募金意図は 3 項目で、援助対象が人以外の動物、環境である団体への募金意図は 3 項目であった。

コントロール項目 オンラインアンケートでは、回答者のモチベーション欠如や不注意による手抜き回答が発生し、データの汚染が懸念される(三浦・小林, 2015)。したがって、データの質を管理するために「この設問には、『まったく当てはまらない』をお選び下さい」という項目を用い、データ除外基準の 1 つにした。

結果

MES 総得点と下位尺度得点の算出方法

MES は 10 個の下位尺度(=カテゴリ)から構成される。下位尺度の得点は、各下位尺度の 3 項目の平均値である。MES 総得点は、10 の下位尺度の平均値である。

分析対象の抽出

本研究では、コントロール項目の他に、Crimston et al. (2016)の用いた基準を参考にし、手抜き回答を除外した。具体的に、Crimston et al. (2016)は、MES 下位尺度の「悪者」得点が、「家族」と「内集団」のいずれか、または両方よりも高い得点であった場合、回答者の注意や関心が欠如していたとして該当データを除外している。本研究では、この基準を参考にし、該当データを除外してから分析を行った。分析対象となったのは、246 名(男性 140 名, 女性 106 名, M = 49.24, SD = 11.98)であった。

尺度構成と信頼性

カテゴリ毎に平均値と標準偏差を算出したところ、上位 3 カテゴリ(家族／友人、内集団、敬意を示される人)と下位 1 カテゴリ(悪者)は、Crimston et al. (2016)の Study1 と一致していた。また、「悪者」を除いた人カテゴリは上位 5 に含まれ、下位には人以外のものカテゴリ(動物、環境)が含まれる点において原版と一致した結果となった。下位尺度のクロンバックの信頼性係数は、αs = .76～.90 であり、十分な内的整合性が確認された。詳しい結果を Table1 に示す。

Table 1 MES と各下位尺度の平均値、標準偏差と内的整合性

	M	*SD*	*α*
MES	65.65	15.49	.95
家族／友人	10.94	1.49	.82
内集団	8.50	1.94	.77
敬意を示される人	7.13	2.35	.84
外集団	6.68	2.23	.78
スティグマを貼られた人々	6.56	2.18	.76
環境	5.63	2.20	.90
高い知能を持つ動物	5.53	2.18	.88
植物	5.39	2.17	.89
低い知能を持つ動物	5.24	2.09	.88
悪者	4.05	1.71	.85

注) 各下位カテゴリは 3 項目から構成されており、得点の範囲は 0～12 点である。

Crimston et al. (2016)のオーストラリアおよびアメリカ人サンプルによると、MES の平均得点は M = 44.21, SD = 12.30 であったが、本研究ではそれよりも高かった(M = 65.65, SD = 15.49)。一方で、原版と同様に、年齢と MES 邦訳版の間に有意な相関は見られなかった(r = .02, *ns*)。また、MES の男女差を検討したところ、有意な差は見られなかった(t (244) = .28, *ns*; 男性: M = 65.41, SD = 14.96; 女性: M = 65.97, SD = 16.23)。クロンバックの信頼性係数は、α = .95

であり、高い内的整合性が確認された。

妥当性の検討

基準関連妥当性を見るために、MES 邦訳版と各尺度の相関関係を調べた。原版の検討方法を参考にし、MES の総得点と各尺度の相関係数を求めた。MES 邦訳版と道徳基盤の下位尺度 2 つ(ケア／危害を加えない、公正な関係性の維持)、共感的配慮、視点取得、自然に対する関心・保護の間には、低〜中程度の有意な相関が確認された。一方で、MES 邦訳版と道徳基盤の下位尺度 3 つ(内集団への忠誠、権威と階層への敬意、純潔・神聖)の間にも、有意な正の相関が見られ、原版とは異なる結果となった。MES 邦訳版と各尺度の相関を Table2 に示す。

Table 2　MES と道徳性の指標の相関係数

道徳性の指標	MES	*M*	*SD*	α
道徳基盤尺度				
ケア／危害を加えない	.30**	17.44	3.95	.85
公正な関係性の維持	.32**	16.95	15.43	.83
内集団への忠誠	.28**	15.43	3.80	.73
権威と階層への敬意	.22**	14.89	3.79	.75
純潔・神聖	.26**	16.98	3.76	.80
共感性				
共感的配慮	.20*	23.80	4.21	.76
視点取得	.21*	24.04	4.30	.84
自然に対する感情反応尺度				
関心・保護	.21*	22.00	4.80	.94
募金意図				
募金(人)	.30**	10.14	3.83	.89
募金(動物・環境)	.37**	9.41	3.77	.90

注) *p < .01, **p < .001

予測妥当性を見るために、重回帰分析を用い、各説明変数が持つ募金意図の説明力を調べた。ステップ 1 では、統制変数として年齢と性別を投入した。ステップ 2 では、共感性(共感的配慮、視点取得)と道徳基盤を投入した。最後に、ステップ 3 で MES を投入したところ、決定係数が有意に増加した(目的変数＝人ターゲットに対する募金意図： R^2 = .06, F (11, 234) = 10.21, p < .001; 目的変数＝人以外のターゲットに対する募金意図: R^2 = .06, F(11, 234) = 10.27, p < .001)。このことから、MES は独自に向社会的な行動意図を予測することが示された。詳しい結果を Table 3 に示す。

考察

本研究は、Moral Expansiveness Scale(MES)邦訳版を作成し、信頼性と妥当性を検討することを目的とした。原版と同様に、MES 邦訳版は、関連する構成概念の尺度と低〜中程度の相関を示した。10 の下位尺度と MES 邦訳版のクロンバックの信頼性係数は、十分な値が得られた(αs = .76〜.95)。人と動物・環境の援助を目的とした募金行動の意図は、MES によって有意に説明されていた。したがって、MES 邦訳版は十分な基準関連妥当性、及び予測妥当性を有することが示された。以上より、Crimston et al. (2016)の主張に一貫し、道徳的な気遣いは、これまでにない概念として、今後の道徳研究に寄与することが期待される。また、MES は実在する生物・非生物をターゲットとしており、対人認知や道徳判断に限らず、集団関係、非人間化、擬人化観、自然保護など多岐に渡る研究テーマに適用可能である。

MES 邦訳版は、年齢や性別によって規定されないとする原版の定義と一致する結果となった。MES 邦訳版の男女得点を比較したところ有意な差が示されず、年齢と MES 邦訳版は無相関であった。このことから、道徳的な気遣いの拡張性はデモグラフィック要因によって説明されないことが確認された。

原版と同様に、MES 邦訳版と道徳基盤の下位尺度 2 つ(ケア／危害を加えない、公正な関係性の維持)、共感的配慮、視点取得、自然に対する関心・保護の間には、有意な正の相関が見られ、十分な基準妥当関連性を有することが示された。

一方で、Crimston et al. (2016)の Study 1 と Study 3 では、MES 邦訳版と道徳基盤の下位尺度 3 つ(内集団への忠誠、権威と階層への敬意、純潔・神聖)の負の相関が報告されているが、本研究では有意な正の相関が見られた。また、どの道徳基盤も、向社会的な行動意図を有意に予測していなかった。Graham, Haidt, & Nosek(2009)は、道徳基盤の通文化性を主張している。しかし、道徳基盤理論は、白人の価値観に偏っているという指摘がある(Davis, Rice, Van Tongeren, Hook, DeBlaere, Worthington, & Choe, 2016)。特に、先に挙げた 3 つの道徳基盤は、束ねる基盤(binding foundations)と呼ばれ、政治のイデオロギーだけでなく、宗教、文化や民族性の影響を受けることが分かっている(Davis et al., 2016; Johnson, Hook, Davis, Van Tongeren, Sandage, & Crabtree, 2016; Yilmaz, Harma, Bahçekapili, & Cesur, 2016)。このことから、道徳基盤尺度は欧米社会の白人が共有する価値傾向が根幹にあり、日本人特有の道徳観は反映されていない可能性が示唆される。つまり、本来の理論が提唱している 5 因子モデルの構造や構成概念は、日本人サンプルでは再現されない懸念がある。本研究では、原版を参考にし、MES 邦訳版の妥当性を確認するために道徳基盤尺度を用いた。しかし、MES 邦訳版と道徳基盤の関係性については、道徳基盤尺度の信頼性と妥当性を日本人サンプルで検討しつつ、確認

Table 3　募金意図(人)と募金意図(動物、環境)を目的変数とした階層的重回帰分析の結果

	募金意図(人)			募金意図(動物、環境)		
説明変数	Step 1	Step 2	Step 3	Step 1	Step 2	Step 3
	β	*β*	*β*	*β*	*β*	*β*
年齢	.24**	.14*	.15*	.18**	.10	.10
性別	.15*	.06	.07	.21**	.14*	.14*
ケア/危害		.15	.15		−.13	−.13
公正		−.06	−.10		.16	.09
忠誠		.04	.02		.01	−.02
権威		.06	.06		−.01	−.02
純潔・神聖		−.06	−.05		.04	.06
共感的配慮		.25**	.24**		.13	.12
視点取得		.11	.10		.10	.08
関心・保護		.15	.16*		.27**	.29**
MES			.18**			.26**
R^2	.06**	.27**	.29**	.05**	.23**	.29**
ΔR^2		.24**	.03**		.21**	.06**

注) $^{*}p < .05$, $^{**}p < .01$; ケア/危害＝ケア/危害を加えない，公正＝公正な関係性の維持，忠誠＝内集団への忠誠，権威＝権威と階層への忠誠，関心・保護＝自然の関心・保護

していく必要がある。

さらに、MES 邦訳版は向社会的な行動意図に対し、独自の説明力を持つ変数であることが再現された。MES 邦訳版の得点が高い者は、他者、動物、環境のための募金意図を強く示すことが明らかとなった。だが、MES 邦訳版の妥当性は検討の余地が残っている。本研究では、向社会的な行動意図を測定するために、運よく手に入った資産から募金をするかどうか回答を求めた。これは、比較的コストの低い向社会的行動である。しかし、あるものを道徳的に包括するということは、認知の枠に収まらず、個人的な犠牲を伴う行動レベルの結果をもたらす(Opotow, 2011)。すなわち、MES 邦訳版の予測妥当性をさらに検討するためには、コストと関与度のより高い、自己犠牲を伴う向社会的な行動との関連を調べる必要があろう。

それに伴い、本研究の課題の一つとして、意図は調べたが、実際の向社会的な行動を検討しなかったことが挙げられる。回答者に、どの程度実際募金活動等に参加した経験があるのか回答を求めることは事前に検討していた。だが、本研究では、社会的望ましさや記憶バイアスによる過大報告(e.g., Lee & Sargeant, 2011)を念頭に、募金行動よりも募金意図とした。オンライン調査には限界があるが、今後の研究では、実験を通じて実際の向社会的行動(例：自発的にパートナーの課題をどの位手助けをするか)を確認し、MES 邦訳版の妥当性をさらに検討することが望まれる。

本研究では、道徳的な気遣いの適用される範囲と程度の個人差を測定する MES 邦訳版を作成し、尺度の信頼性と妥当性を検討した。道徳の輪の中心部である内側は時代と共に拡張傾向にある(Pinker, 2011; Singer, 2011)。半世紀前は、道徳的な気遣いの対象でなかったものが、今では道徳の輪の内側に包括すべきという意識が共有されるようになった。例えば、差別撤廃措置や環境保全への取り組みが挙げられる。だが、今でも道徳の輪の内側に包括されず、共感や道徳的な気遣いの対象から外されたものは存在する。冒頭の路上実験でも示されたように、道徳の輪の内側からの除外は無関心な傍観として表れることがある(Schmader, Croft, Scarnier, Lickel, Mendes, 2012)。真に包括的な社会とは、誰も道徳的な輪の内側の外に置き去りにされることのない場所であろう。道徳の輪の拡張は、今後検討すべきテーマであり、MES は有益なツールとして貢献することが期待される。

引用文献

Bastian, B., Costello, K., Loughnan, S., & Hodson, G. (2012). When closing the human–animal divide expands moral concern: The importance of framing. *Social Psychological and Personality Science, 3,* 421-429.

Carty, S. (2015). Social experiment shows Australians' furious reaction when a man walks the street with 'refugees are scum' sign...but what is their response when he swaps it for 'help the refugees'?

Daily Mail Australia. Retrieved from: http://www.dailymail.co.uk/news/article-3094558/Watch-furious-reactions-Australians-man-street-wear-ing-sign-reading-refugees-scum-react-sign-reading-help-refugees.html (August 5, 2016.)

Cikara, M., Bruneau, E. G., & Saxe, R. R. (2011). Us and them: Intergroup failures of empathy. *Current Directions in Psychological Science*, *20*, 149-153.

Crimston, D., Bain, P. G., Hornsey, M. J., Bastian, B. (2016). Moral expansiveness: Examining variability in the extension of the moral world. *Journal of Personality and Social Psychology*, Advance online publication. doi: 10.1037/pspp0000086

Davis, D. E., Rice, K., Van Tongeren, D. R., Hook, J. N., DeBlaere, C., Worthington, E. L., Jr., Choe, E. (2016). The moral foundations hypothesis does not replicate well in black samples. *Journal of Personality and Social Psychology*, *110*, 23-30.

Decety, J., & Cowell, J. M. (2014). The complex relation between morality and empathy. *Trends in Cognitive Sciences*, *18*, 337-339.

Epley, N., Waytz, A., & Cacioppo, J. T. (2007). On seeing human: A three-factor theory of anthropomorphism. *Psychological Review*, *114*, 864-886.

Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *Journal of Personality and Social Psychology, 96,* 1029-1046.

Graham, J., Nosek, B. A., Haidt, J., Iyer, R., Koleva, S., & Ditto, P. H. (2011). Mapping the moral domain. *Journal of Personality and Social Psychology*, *101*, 366-385.

Harris, L. T., & Fiske, S. T. (2006). Dehumanizing the lowest of the low: Neuroimaging responses to extreme outgroups. *Psychological Science*, *17*, 847-853.

Haslam, N. (2006). Dehumanization: An integrative review. *Personality and Social Psychology Review, 10,* 252-264.

Iacoboni, M. (2011). Mirroring as a key neural mechanism of sociality. In G. R. Semin & G. Echterhoff (Eds.), *Grounding sociality: Neurons, mind, and culture* (pp. 13-26). New York: Taylor & Francis Group.

Johnson, K. A., Hook, J. N., Davis, D. E., Van Tongeren, D. R., Sandage, S. J., & Crabtree, S. A. (2016). Moral foundation priorities reflect U.S. Christians' individual differences in religiosity. *Personality and Individual Differences*, *100*, 56-61.

日本臓器移植ネットワーク (2016). 臓器提供の意思表示に関する意識調査 日本臓器移植ネットワーク Retrieved from http://www.jotnw.or.jp/file_lib/pc/press_pdf/2016812press.pdf (2016 年 8 月 15 日)

Laham, S. M. (2009). Expanding the moral circle: Inclusion and exclusion mindsets and the circle of moral regard. *Journal of Experimental Social Psychology*, *45*, 250-253.

Lee, Z. E., & Sargeant, A. (2011). Dealing with social desirability bias: An application to charitable giving. *European Journal of Marketing*, *45*, 703-719.

Leyens, J. P., & Demoulin, S., Vaes, J., Gaunt, R., Paladino, M. P. (2007). Infra-humanization: The wall of group differences. *Social Issues and Policy Review*, *1*, 139-172.

Mayer, F. S., & Frantz, C. M. (2004). The connectedness to nature scale: A measure of individuals' feeling in community with nature. *Journal of Environmental Psychology*, *24*, 503-515.

三浦 麻子・小林 哲郎 (2015). オンライン調査モニタの Satisfice はいかに実証的知見を毀損するか 社会心理学研究, *31*, 120-127.

MoralFoundations.org. (2013). Questionnaires. MoralFoundations.org. Retrieved from http://moralfoundations.org/questionnaires (August 8, 2016.)

Opotow, S. (1990). Moral exclusion and injustice: An introduction. *Journal of Social Issues, 46,* 1-20.

Opotow, S. (2011). How this was possible: Interpreting the Holocaust. *Journal of Social Issues, 67,* 205–224.

Perrin, J. L., & Banassi, V. A. (2009). The connectedness to nature scale: A measure of emotional connection to nature? *Journal of Environmental Psychology*, *29*, 434-440.

Pinker, S. (2011). *The better angels of our nature: Why violence has declined*. New York, NY: Viking.

Rozin, P., Markwith, M., & Stoess, C. (1997). Moralization and becoming a vegetarian: The transformation of preferences into values and the recruitment of disgust. *Psychological Science*, *8*, 67-73.

桜井 茂男 (1988). 大学生の置ける共感と援助行動の関係 ―多次元共感測定尺度を用いて― 奈良教育大学紀要, *37*, 149-154.

Schmader, T., Croft, A., Scarnier, M., Lickel, B., Mendes, W. B. (2012). Implicit and explicit emotional reactions to witnessing prejudice. *Group Processes & Intergroup Relations*, *15*, 379-392.

芝田 征司 (2016). 自然に対する感情反応尺度の作成と近隣緑量による影響の分析 *心理学研究*, *87*, 50-59.

Singer, P. (2011). *The expanding circle: Ethics, evolution, and moral progress.* New York, NY: Farrar, Straus & Giroux.

Yilmaz, O., Harma, M., Bahçekapili, H. G., & Cesur, S. (2016). Validation of the Moral Foundations Questionnaire in Turkey and its relation to cultural schemas of individualism and collectivism. *Personality and Individual Differences*, *99*, 149-154.

註

1) MES 邦訳版の作成には、開発者の D. Crimston 氏に有益な助言を賜りました。心より感謝申し上げます。

2) オンラインアンケートを利用した理由は、幅広い年齢層の多様なバックグラウンドを持つ人々をサンプルとして確保するためである。また、倫理上の規約により、未成年は保護者の同意をもって参加可能となっている。だが、オンライン調査では保護者の同意を確約することが困難であるという懸念から、対象条件を 20 歳以上に設定した。年齢の範囲は、21～77 歳であった。

Appendix1 MES Entity List

United States	Australian	日本
Family/Friends	Family/Friends	家族/友人
Family member	Family member	家族の一員
Close friend	Close friend	親友
Partner/spouse	Partner/spouse	恋人/配偶者
In-group	In-group	内集団
American citizen	Australian citizen	日本国民
Somebody from your neighborhood	Somebody from your neighborhood	近所の人
Co-worker	Co-worker	同僚
Out-group	Out-group	外集団
Foreign citizen	Foreign citizen	外国人
Member of opposing political party	Member of opposing political party	対立する政党の党員
Somebody with different religious beliefs	Somebody with different religious beliefs	信仰する宗教の違う人
Revered	Revered	敬意を示される人
U.S. President (position not specific individual)	Prime Minister of Australia (position not specific individual)	総理大臣(特定の人ではない)
U.S. Soldier	Australian Soldier	自衛官*
Charity worker	Charity worker	慈善活動をする人
Stigmatized	Stigmatized	スティグマを貼られた人々
Homosexual	Homosexual	LGTBI**
Mentally challenged individual	Mentally challenged individual	精神障害者
Refugee	Refugee	難民
Villains	Villains	悪者
Murderer	Murderer	殺人犯
Terrorist	Terrorist	テロリスト
Child molester	Child molester	児童性的虐待者
Animals high-sentient	Animals high-sentient	高い知能を持つ動物
Chimpanzee	Chimpanzee	チンパンジー
Dolphin	Dolphin	イルカ
Cow	Cow	牛
Animals low-sentient	Animals low-sentient	低い知能を持つ動物
Chicken	Chicken	鶏
Fish	Fish	魚
Bee	Bee	ハチ
Plants	Plants	植物
Redwood tree	Redwood tree	スギの木*
Apple tree	Apple tree	桜の木*
Rose bush	Rose bush	ツツジ*
Environment	Environment	環境
Coral reef	Coral reef	サンゴ礁
Old-growth forest	Old-growth forest	原生林
Grand Canyon National Park	Uiuru (Ayers Rock)	富士山*

*アメリカとオーストラリアの実在する「もの」とは異なる、日本独自のもの

**原著者の意向により、変更

Appendix2 MES 教示

道徳的な気遣いの輪の層

「道徳的な気遣いの輪」の層について議論されることがあります、これらの輪は、私たちが実在する「もの」(例えば、人、動物、環境)に対して持つ道徳的な配慮のレベルを示すのに容易な方法です。

私たちが実在するものを「道徳的な気遣いの輪」のどこに位置付けるかは、重要な問題で、私たちがこれらのものをどう扱うかについて直接的な結果をもたらします。例えば、あなたの道徳的な世界の中心には、近親者や友人がいて、あなたは、彼・彼女らのためなら個人的な犠牲を払うでしょう。

しかし、もし私たちが、あるものを道徳的な気遣いの輪に含まないのであれば、そのものは道徳的な擁護や配慮に値すると私たちは信じていないことになり、私たちは個人的な犠牲をそれらのもののために払おうとはしないでしょう。

次ページには、様々な「もの」を整理し、あなたの総督的な気遣いの輪のどこに位置付けられるかお答え頂く設問がありますので、あなたの個人的な見解や気持ちを反映するようにお答え下さい。

□ 私は以上の説明文を読み、理解しました。

図: 道徳的な気遣いの輪

ここに道徳の輪の図を挿入

----------改ページ----------

先ほど説明された「道徳的な気遣いの輪」について、以下に挙げられた「もの」に対してあなたが持つ道徳的な気遣いのレベルを考えてみて下さい。

以下の記述をよくお読みになってから、判断して下さい。

道徳的な気遣いの「輪の内側」

この輪の中に属するものは、最高レベルの道徳的な気遣いや地位に値する。あなたには、これらの幸福を保障する道徳的な義務があり、処遇に個人的責任を感じる。

道徳的な気遣いの「外の輪内」

この輪の外に属するものは、ある程度の道徳的な気遣いと地位に値する。あなたは、これらに対して、道徳的に扱うことを認めるものの、輪の内側に比べては格段に義務感や個人的責任感が弱い。

道徳的な気遣いの「境界」

この領域のものは、最小限の道徳的な気遣いと地位に値する一方で、あなたには、道徳的に扱うことに対する義務や個人的責任がない。

道徳の輪の「範囲外」

これらのものは、まったく道徳的な気遣いや地位に値しない。道徳的に扱う配慮や個人的責任感を持つことは過剰であるか、無意味である。

ここに道徳の輪の図を挿入

Validation of the Japanese version of Moral Expansiveness Scale

Reina TAKAMATSU (*Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University*)
Jiro TAKAI (*Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University*)

The present study aimed to evaluate the psychometric properties of the Japanese version of Moral Expansiveness Scale (MES). The MES captures depth and breadth of the moral world in which the individual extends moral concern to a variety of entities, such as human, animals and environment. The original version has been tested on Australian and US samples and includes some target entities that are unfamiliar for Japanese samples (e.g., soldier, redwood tree). To make the entity list correspondent to Japanese society, we altered the entities. In validating the Japanese version, we conducted an online study to draw a diverse sample (n = 246; mean age = 49.24 years). The overall results demonstrated that the Japanese version of the MES has good convergent and predictive validity, hence a sound tool for assessing moral expansiveness in Japanese sample.

Keywords: moral expansiveness, scale development of the Japanese version, validation of psychometric properties, moral circle, moral judgment.